

## 2016年度 茨城県平和委員会定期大会開催！

# 新しい時代を切り開く2016年度方針を決定！



### 市民連合共同代表・先崎千尋さん (元瓜連町長) が挨拶

2016年度茨城県平和委員会定期大会は、6月19日(日)、午前10時から水戸市・青少年会館で開催されました。

木村事務局長の開会宣言のあと、議長に山口由夫さん(石岡)、中山弘子さん(水戸・花だいこん)の二人を選出し、大会が始まりました。

水野映一郎代表理事(阿見)が開会の挨拶。「全国でも珍しい38の基礎組織で構成されている茨城県平和委員会は、地域のたちとともに、会員各人の思いを徹底的に話し合い、取り組みを進めよう」と述べました。次いで来賓の方3名の挨拶がありました。

### ◆野党共闘の推進と選挙に行くことを呼びかける一市民連合

茨城県市民連合共同代表の一人である先崎千尋さんは、安倍政権の暴走を許すべきではないとし「安倍政権を打倒するために野党共闘、そして選挙に行くように呼びかけることを、市民連合は力強く進めて行こうと考えております」、と力強く述べました。

### ◆市民連合と連帯して草の根からの国政革新運動を 一日本平和委員会

日本平和委員会事務局次長 岩月康範さんは、市民と戦争法廃止の野党との連帯は今後とも重要になるとして、「茨城県は7つの小選挙区の中に多くの平和委員会がある。全国に先駆けて市民と連帯した力を発揮できる」との思いを披歴しました。

### ◆立憲主義・民主主義回復の新しい政治を作り出そう 一日本共産党

日本共産党県委員会委員長の田谷武夫さんは、戦争法廃止、立憲主義の破壊を許さない野党共闘を進めるため、1人区の候補者を取り下げたことを述べ、「野党共闘の勝利と日本共産党の躍進で、改憲を狙う安倍政権を倒して、立憲主義・民主主義回復の新しい政治を作り出そうではありませんか。」と訴えました。



別刷り版にて詳細を掲載します。

## 2016年度第65回・日本平和委員会定期全国大会開催！

会員数・新聞購読数・理論誌ともに前進の中で！

### 神奈川県相模原市 麻布大学の学舎に300人が集う！

2016年6月11日(土)～12日(日)、2日間に日本平和委員会定期全国大会が開催されました。



大会は、戦争法と沖縄の新米軍基地建設を阻止するたたかいに最大の力を注ぎ、草の根からの共同の輪を広げて安倍政権打倒の展望を切り開き、7月の参議院に向けて改憲を許さない圧倒的な国民世論を作り出すことを呼びかけました。またこれらの取り組みを通じて、安保条約をなくしてこそ憲法を活かした平和の展望を切り開くことができることを語り広げることを呼び掛けました。

### ◆歴史的岐路の情勢にふさわしい討議と方針の決定を！

大会初日は午後1時30分に開始。代表理事7名を代表して畑田代表理事が挨拶。畑田氏は平和憲法成立の歴史的背景に触れ、戦前回帰の安倍政権による戦争法の強行に怒りを表明しました。また戦争法廃止を求める国民の力で野党共闘が実現したこと、この大会が歴史的岐路に立ったたたかう方針を決める大切な大会であることを強調しました。次いで地元の菊谷氏から歓迎の挨拶、日本共産党衆議院議員の畑野君枝さんからの挨拶がありました。また加山俊夫相模

原市長や麻布大学学長がメッセージを寄せました。

### ◆「平和のナショナルセンター」の役割を果たす 平和委員会の草の根運動を報告！

千坂事務局長は、戦争法廃止の取り組みと野党の共闘を求める市民連合の結成、沖縄と連帯した取り組み等を報告。「安倍政権の最大の狙いは明文改憲にある」と指摘し、「参議院選で戦争法廃止・立憲主義回復の争点を徹底的に明らかに、安倍政権を退陣させよう」と呼びかけました。

全体討論は3時から始まり、沖縄平和委員会が口火を切りました。茨城からは、①茨城県平和委員会の組織状況と昨年度の取り組み、②戦争法反対総がかり行動と市民連合の結成を中心に、「平和のナショナルセンター」として、県内38地域・職場で草の根運動を進めている事を報告しました。

### ◆2日目は8つの分科会に分かれて討論！

「草の根からうねりを作り出そう～参院選勝利、戦争法廃止、憲法を守る日本を作ろう」、「平和大好き」のネットワークを広げよう「青年とともに発展する平和委員会を作ろう」などの分科会できめ細かな討論を進めました。茨城は「第2分科会」と「第3分科会」の司会を担当しました。

昼食後、閉会集会を開催し、午後3時にすべての行事が終了しました。

### ◆茨城平和委員会から5人が出席

水野氏、堀江氏、伊達氏の各代表理事、川又常任理事、木村事務局長の5人が参加しました。1日目の夜に行われた懇親会にも参加し、各県の参加者と親しく交流しました。

## 平和新聞

2016年6月15日・25日 合併号  
2112号 (毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会  
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館  
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

## 平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 750 合併号

2016.6/15・25  
発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281  
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

# 美和・緒川平和会総会開かれる！

総会後は、おいしい懇親会も！

## 1年間の活動の総括と今年度の方針を決定！

6月4日（土）午後2時から、緒川地区やすらぎの里公園「つつじ荘」で2016年度定期総会が開催しました。前年度活動の総括と決算、今年度の活動方針、予算、役員等を決定しました。

美和・緒川平和の会は、活動するにあたって定期的に役員会を開催し、課題の把握や取り組みの具体化を丁寧に協議して進めています。また他団体と連帯した取り組みも積極的に進めています。

### 多彩な取り組みの土台に、 定例的な話し合いの実績が試される！

2015年度は、戦争法案反対のたたかいでは、市内の7団体で「常陸大宮市民の会」を結成して地域での集会・デモに取り組みました。県総がかり行動や国会包囲行動にも積極的に参加しています。また2000万署名では「会員1人当たり20筆以上」の目標を立て、492筆集約しました。

中学校の歴史教科書採択問題では、市が憲法「改正」を主張する「自由社」「育鵬社」の教科書採択を狙っていました。平和委員が呼びかけ、市内の6団体で「教科書問題を考える常陸大宮連絡会」結成しました。2月には依義文氏（子どもと教科書全国ネット21事務局長）を呼んで、「教科書問題と戦争法を考える～子どもたちに正しい知識を～」学習会を成功させました。市民へビラを配布し、市へは憲法を敵視する歴史教科書等の採択に反対する要請を行ないました。反対運動の高まりのなかで市は「自由社」「育鵬社」の教科書採択を断念せざるを得ませんでした。

### 役員体制が決まりました！

会長に堀江仙三氏、副会長に呷野昭壽氏・山口孝氏、事務局長に岡崎孝敬氏を選出しました。総会終了後、公園内に設置されているパーベキュー会場に移動して、おいしい交流会が行われ、楽しい時間を過ごしました。

事務局から木村事務局長が参加して挨拶しました。



## ★所感★ 「思考散散」と「川柳」

常陸太田平和の会・福田 亘男



県平和委員会の皆様、毎日の活動ご苦労様です。各大会に向け理事各位、常任理事会と続く理事会、お疲れ様でした。

愈（いよいよ）参院選も近づき、野党の共同と国民との協力  
で誠司を変えるチャンスを生かせるか。

それにしても日本政府の皆さん、精神状態はどうなっているのか。周辺で震度7の地震発生、活断層が活動中だということに、知らぬ顔で原発再稼働。なにかの一つ覚え、世界一の安全基準だと繰り返す。

G7では、アベノミクスの失敗に類被り、自分の責任を放棄、世界と中国経済の動向が原因と大見得を切るが、各国の首脳は首を横に振る始末。

さすがに（？）消費税増税延期は、前回総選挙の公約に違反とばかりに（公約違反は常習）国民に信を問えという声も出たが……？。（国民にとって、正解は税率引き下げか中止だ）

沖縄県でまたも米軍関係者によると見られる凶悪事件が発生。遺体遺棄事件と報道されているが、個人的には疑問あり。実体は殺人遺棄事件ではないにか。

これに関し、地位協定の見直しを対象にあげられたようだが、米軍の地位や犯人の罪状、身柄の取り扱いが主旨なら、事件発生を前提とするものであり、犯罪防止は出来ない。基地の撤去と軍隊の撤収以外に解決方法は無い。これが自明の理。

米大統領候補のトランプ氏の放言。日本が米軍駐留経費全額出さなければ、米軍を撤収する、日本を守らないと主張しているが…。米軍の駐留の歴史的経過や目的、実態また駐留軍への過分の負担と思ひ遣りには無視か無知を決め込む？。唯一、米軍の撤退には賛成だが。

最近では季節の変わり目に関係なく、激しい天候の現出、気温の変動が何処でも発生。場所や規模の予測が難しい。どなたもご自愛を。

美ら海の サンゴ蹴散らす 基地移設

武器・核炉 輸出のお礼は 献金で

憲法も 黒塗りしたい アベの道

短観に 矢を落とされた アベのミス

百里野に 基地はいらぬと 稲荷様

川柳

（この二句は、憲法フェスティバルの資料に掲載して頂きました。）



## 結城にて第56回茨城県母親大会

6月5日、県内各地から755人余が集う！

今年の県母親大会は、「結城市民センターアクロス」を会場に、県内各地から755人余が参加して開催されました。午前中は8つの分科会が、「安保法制 廃止に！」「TPP」「子どもの貧困」「暮らし・社会保障」などをテーマに行われました。午後の全体会では、常総市の豪雨で甚大な被害を受けた被災者の方の訴えや、「TPPの国会批准阻止」「東海第二原発の廃炉に」「戦争法は廃止に」などの発言の後、イラク支援ボランティアの高遠菜穂子氏による記念講演「イラクから見る日本～暴力の連鎖の中で考える～」が行われました。

高遠さんは講演で、・空爆下のファルージャでの被害のすさまじさ、・日本ではイラク戦争の実態が「情報鎖国」のために知られていない、・過激武装勢力「IS」の動き、などをプロジェクターを使って説明したあと、

「正しい情報を得るためにもっと努力し、日本を戦争を止める国にしていきましょう！」と訴えました。

大会終了後、会場から結城駅までデモ行進を行いました。 ※ 来年の県母親大会は取手市で開催。

